

(株)山川出版社

令和4年度用「**歴史総合**」

教科書ご説明資料

山川出版社HP
＼歴史総合特設サイト／



3つのスタイル

山川出版社は、様々な授業スタイルを想定した
3種の教科書をご用意しました。



『歴史総合』

近代から現代へ



『現代の歴史総合』

みる・読みとく・考える



『わたしたちの歴史』

日本から世界へ

プログラム

- ①新科目 歴史総合とは
- ②教科書3種の違い
- ③各教科書の特徴
 - A.『歴史総合 近代から現代へ』
 - B.『現代の歴史総合 みる・読みとく・考える』
 - C.『わたしたちの歴史 日本から世界へ』
- ④指導書のご案内
- ⑤教材のご案内



① 新科目 歴史総合とは

歴史総合

- ◆ 日本史と世界史の関連性を重視し、グローバルな視点を養う
- ◆ 主に近代・現代史を扱い、現代社会のあり方や諸課題について考える観点を養う

① 新科目 歴史総合とは

歴史総合 各部の学習の流れ

●第1部「近代化と私たち」 ●第2部「国際秩序の変化や大衆化と私たち」 ●第3部「グローバル化と私たち」

① 資料をもとに問いを立てる

部のはじめ

② 本文で歴史の流れを学ぶ

本文

③ 現代の諸課題と向き合う

部のまとめ

② 3種の違い

各教科書のコンセプト・スペック

『歴史総合』

近代から現代へ

探究につながる

詳しい記述



『現代の歴史総合』

みる・読みとく・考える

深める歴史

テーマ・資料・問いで考える



44テーマ

『わたしたちの歴史』

日本から世界へ

見開き47テーマ

ビジュアルで楽しく学ぶ



47テーマ

- ◆B5判 254頁 ●写真283点
- 地図73点 ●グラフ・図表112点
- 文字資料55点 ●2次元コード19点

- ◆AB判 262頁 ●写真555点
- 地図112点 ●グラフ・図表178点
- 文字資料177点 ●2次元コード16点

- ◆AB判 182頁 ●写真301点
- 地図87点 ●グラフ・図表100点
- 文字資料54点 ●2次元コード10点

② 3種の違い

各教科書の本文イメージ

『歴史総合』

近代から現代へ

『現代の歴史総合』

みる・読みとく・考える

『わたしたちの歴史』

日本から世界へ

5

第一次世界大戦と大衆社会

1 第一次世界大戦とロシア革命

第一次世界大戦は、互いに互いに、最も激しい戦争の一つであり、世界史上最大の戦争であった。その結果、ヨーロッパの勢力圏は大きく変化した。また、ロシア革命は、世界史上初めての社会主義革命であり、世界に大きな影響を与えた。

第一次世界大戦は、1914年から1918年まで続いた。この戦争は、ヨーロッパの列強国が争った。結果として、ヨーロッパの勢力圏は大きく変化した。また、ロシア革命は、世界史上初めての社会主義革命であり、世界に大きな影響を与えた。

第一次世界大戦は、1914年から1918年まで続いた。この戦争は、ヨーロッパの列強国が争った。結果として、ヨーロッパの勢力圏は大きく変化した。また、ロシア革命は、世界史上初めての社会主義革命であり、世界に大きな影響を与えた。

第一次世界大戦は、1914年から1918年まで続いた。この戦争は、ヨーロッパの列強国が争った。結果として、ヨーロッパの勢力圏は大きく変化した。また、ロシア革命は、世界史上初めての社会主義革命であり、世界に大きな影響を与えた。

18世紀の東アジアにおける社会と経済

18世紀の東アジアは、商品生産と流通網の発展によって大きく変化した。この時代は、東アジアの社会と経済が急速に変化した。この時代は、東アジアの社会と経済が急速に変化した。

18世紀の東アジアは、商品生産と流通網の発展によって大きく変化した。この時代は、東アジアの社会と経済が急速に変化した。この時代は、東アジアの社会と経済が急速に変化した。

18世紀の東アジアは、商品生産と流通網の発展によって大きく変化した。この時代は、東アジアの社会と経済が急速に変化した。この時代は、東アジアの社会と経済が急速に変化した。

18世紀の東アジアは、商品生産と流通網の発展によって大きく変化した。この時代は、東アジアの社会と経済が急速に変化した。この時代は、東アジアの社会と経済が急速に変化した。

18世紀の世界とアジア

18世紀の世界とアジアは、商品生産と流通網の発展によって大きく変化した。この時代は、世界とアジアの社会と経済が急速に変化した。この時代は、世界とアジアの社会と経済が急速に変化した。

18世紀の世界とアジアは、商品生産と流通網の発展によって大きく変化した。この時代は、世界とアジアの社会と経済が急速に変化した。この時代は、世界とアジアの社会と経済が急速に変化した。

18世紀の世界とアジアは、商品生産と流通網の発展によって大きく変化した。この時代は、世界とアジアの社会と経済が急速に変化した。この時代は、世界とアジアの社会と経済が急速に変化した。

18世紀の世界とアジアは、商品生産と流通網の発展によって大きく変化した。この時代は、世界とアジアの社会と経済が急速に変化した。この時代は、世界とアジアの社会と経済が急速に変化した。

論理的な記述

44テーマ
1テーマ4~6頁

47テーマ
1テーマ2頁

歴史総合

③各教科書の特徴

A.『歴史総合 近代から現代へ』

B.『現代の歴史総合 みる・読みとく・考える』

C.『わたしたちの歴史 日本から世界へ』

A. 『歴史総合』

近代から現代へ

歴総707



- ◆ B5判 254頁 ● 写真283点
- 地図73点 ● グラフ・図表112点
- 文字資料55点 ● 2次元コード19点

『歴史総合』近代から現代へ

探究につながる詳しい記述

- ① 歴史の流れを詳述、信頼できる内容
 - ・全体を**時系列的**に取り扱い
 - ・**因果関係**が理解しやすい論理的な記述
- ② 日本史探究・世界史探究とのつながりを意識
 - ・日本史分野、世界史分野の**バランス**を配慮
 - ・各地域世界ごとの**風土や歴史**について、見開きで簡潔に説明
- ③ 歴史の着眼点となる問いかけを設定
 - ・節の冒頭や本文の途中に**考察を促す問い**を設定

内容解説資料
p.3参照

A. 『歴史総合』
近代から現代へ



巻頭資料

諸地域世界の形成

「東アジア」「南アジア・東南アジア」「西アジア」「ヨーロッパ」の風土や近世・近代以前の地域概観について
見開きで完結に説明

ヨーロッパ

ヨーロッパは、北に北海・バルチック海、南に地中海、東に黒海・小亚細亚、西に大西洋に囲まれた大陸棚の半島である。地形は多岐にわたり、多岐にわたる気候帯が存在する。また、主要な河川と湖沼が、北緯30度の緯線に沿って分布している。気候帯は北緯30度以北が温帯気候、以南が亜熱帯気候となる。主要な言語はドイツ語、フランス語、英語、イタリア語、スペイン語、ロシア語などである。人口は約7億人であり、世界人口の約11%を占める。

東アジア

東アジアは、東に太平洋、西に印度洋、南に南シナ海・東シナ海、北に北氷洋に囲まれた大陸棚の半島である。地形は多岐にわたり、多岐にわたる気候帯が存在する。また、主要な河川と湖沼が、北緯30度の緯線に沿って分布している。気候帯は北緯30度以北が温帯気候、以南が亜熱帯気候となる。主要な言語は中国語、日本語、韓国語などである。人口は約45億人であり、世界人口の約65%を占める。

目次

時系列的な取り扱い

全体を時系列的に取り扱い、歴史的なできごとの背景や因果関係が理解しやすい論理的な記述



内容解説資料
p.4~6参照

A. 『歴史総合』

近代から現代へ



部のはじめ

〇〇化への問い

近代化への問い

1～6よりテーマを選び、資料をもとに近代化にともなう人々の生活や社会の変容について考え、疑問に思う点などをまとめて、問いを表現してみよう。

1 交通と貿易

イギリスの鉄道路線(谷川穂波が『近代ヨーロッパの情熱と苦悩』より作成)

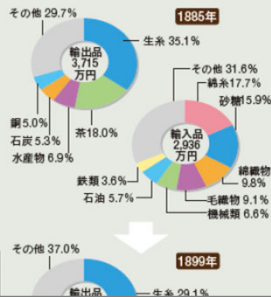


①近代化は交通手段の革新をともなった。Aは、1872(明治5)年にイギリスを訪れた岩倉使節団の見聞である。また、Bは、1836年と1852年のイギリスにおける鉄道路線を示した地図である。これらから何を考えることができるだろうか。鉄道の敷設距離の推移、工業化と鉄道の関係などに注目して、問いを表現してみよう。

A 岩倉使節団の見聞

ヨーロッパの農業・工業・商業の3つが今日のように盛んになったのはこのようにわずかの間のことであったことをわれわれは知った。いまの欧州と40年前の欧州と、状況がどれほど異なったかということ想像してみてほしい。40年前には、陸を走る汽車もなく、海を行く汽船もなく、電線が通信を運ぶこともなかった。運河で小舟を曳き、海上で帆船を操り、道には馬車が走り、駅馬を走らせて通信を選び、兵士は銅の大砲やフロント銃を使って数十歩の近距離を隔てて戦った。…… (久米邦武『米欧回覧実記』、現代語訳)

②交通手段の革新は世界各地を貿易で結びつけた。Cは、1885(明治18)年と1899(明治32)年の日本における品目別の輸出入の割合である。Dは、1885年に設立された日本郵船会社が、1896(明治29)年までに開設したおもな定期航路を示した地図である。これらから何を考えることができるだろうか。輸出入の総額や品目の変化、航路と輸出入品目の関係などに注目して、問いを表現してみよう。



「近代化への問い」
「国際秩序の変化や大衆化への問い」
「グローバル化への問い」

問いのきっかけとなる諸資料の一例を紹介

内容解説資料 p.8参照

A. 『歴史総合』

近代から現代へ

第5章

第一次世界大戦と大衆社会

1 第一次世界大戦とロシア革命

第一次世界大戦は、なぜおこり、各国の社会や国際秩序にどのような変化をもたらしたのだろうか。また、この戦争が、史上初の総力戦と呼ばれるのはなぜだろうか。

バルカン半島での対立

20世紀初頭、列強の二極化が進み、協商国と同盟国の対立が深まった。対立の焦点となったのは、新たに独立した国々が領土をめぐるにらみあい、列強も介入の野心をもつバルカン半島で、その状況から「ヨーロッパの火薬庫」と呼ばれた。とりわけロシアは、日露戦争の敗北によって再びバルカン半島に目を向け、オーストリアもまたバルカン半島での影響力を広げようとしていた。1908年、青年トルコ革命によるオスマン帝国の混乱に乗じて、オーストリアはベルリン会議で行政権を得ていたボスニア・ヘルツェゴヴィナを併合した。セルビアはこれに強く反発し、同じ正教国として関係の深いロシアに支援を求めた。



「ヨーロッパの火薬庫」。いまにも吹きこぼれそうな大釜には「バルカン問題」と書かれており、おさえ込もうとする列強も描かれている。

1912年、ロシアはセルビアやブルガリアなどのバルカン諸国に働きかけ、反オーストリアのバルカン同盟をつくり、オスマン帝国と戦って勝利した(第1次バルカン戦争)。しかし翌年、獲得した領土の分配をめぐる同盟諸国間での戦争(第2次バルカン戦争)が生じると、敗北して多くの領土を失ったブルガリアはドイツ・オーストリアに接近した。

第一次世界大戦の開始

1914年6月、ボスニア・ヘルツェゴヴィナの中心都市サラエヴォで、オーストリアの皇位継承者夫妻がセルビア人により暗殺された。これをきっかけに

バルカン半島は、なぜ「ヨーロッパの火薬庫」と呼ばれたのだろうか。

スラヴ人の多いセルビアは、同じく多くのスラヴ人が暮らすボスニア・ヘルツェゴヴィナの編入を望んでいた。

サラエヴォを訪れたオーストリア皇太子とその随員がセルビア人の学生に射殺された。

本文

学習の目的を明確にする
導入部の「問い」

考察を促し
知識を習得

思考

判断

表現

本文を読む際の
着眼点となる「問い」



内容解説資料
p.9~14参照

A. 『歴史総合』 近代から現代へ



本文

104 第3章 第一次世界大戦と大戦後

107 第一次世界大戦とロシア革命

本文は、日本と世界のつながりを意識した、**因果関係のわかりやすい論理的な記述**

2次元コードは「文字資料」「NHK for School」へリンク

内容解説資料
p.9~14参照

A. 『歴史総合』

近代から現代へ

部のまとめ

〇〇化と現代的な諸課題

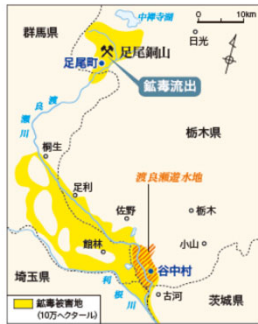


近代化と現代的な諸課題 開発・保全

産業革命の進展は、様々な公害を引きおこし、その対策は政治・社会問題にもなった。栃木県の足尾銅山でおこった公害事件を、「開発」と「保全」の視点から考えてみよう。

幕末に廃鉱同然だった足尾銅山は、実業家古河市兵衛の経営のもとで近代的な開発が進んだ。国内外の大量の電線需要などを背景に銅の生産は急増し、古河の経営手法は高く評価された。一方で、1890(明治23)年頃から洪水にともなう公害が発生し、栃木県選出の衆議院議員田中正造は議会で政府に対策を求めた。

1897年から被害地の住民は上京して陳情活動を始めた。しかし、政府が足尾銅山の操業を停止させることはなかった。田中正造が議員を辞職して明治天皇へ直訴を試みるなど、社会的関心が高まるなかで、1903(明治36)年から政府は新たな対策を計画して進めていった。



足尾銅山と被害地関係図

第4回国内勲業博覧会(1895年)における古河市兵衛の受賞理由

鋭意鉱業全般の改良進歩を図り、率先して電力の応用を認め、又奮てベスマル製銅の業を起し、産額年を遂うて著しく増加し、殆んど全国産額の3分の1を占め、販路遠く海外に及ぶ。
(五日会「古河市兵衛翁伝」)

イギリス人ベッセマーの製鋼法を応用した製鋼法。

疑問1 足尾銅山の開発はどのように進展し、またそれはどのような公害を生み出したのだろうか。資料A～Cから読みとって説明してみよう。

疑問2 政府は、公害問題に対してどのような対策を進めたのだろうか。資料A・Cから読み取って説明してみよう。

田中正造の活動と政府の対策

- 1896年 渡良瀬川大洪水。流域一帯の農作物や家畜に大きな被害。
- 1897年 政府、内閣に第1次鉱毒調査委員会設置。足尾銅山に鉱毒予防工事を命令。
- 1900年 陳情を試みる被害民と警官隊の衝突事件(川俣事件)。
- 1901年 田中正造、議員辞職。明治天皇に直訴を試みるも失敗。
- 1902年 政府、内閣に第2次鉱毒調査委員会を設置。
- 1903年 政府、内閣に第3次鉱毒調査委員会を設置。田中正造は直訴を断念。

疑問3 「開発」の視点で考えると、足尾銅山は日本の近代化にどのように貢献したのだろうか。また、「保全」の視点で考えると、政府の公害対策はどのような点で限界があったのだろうか。それぞれの視点を、資料A～Cをよ

- 「近代化と現代的な諸課題」
- 「国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題」
- 「現代的な諸課題の形成と展望」

課題に取り組むきっかけとなる
諸資料を提示

内容解説資料
p.15参照

B.『現代の歴史総合』

みる・読みとく・考える

歴総708



- ◆AB判 262頁 ●写真555点
- 地図112点 ●グラフ・図表178点
- 文字資料177点 ●2次元コード16点

『現代の歴史総合』みる・読みとく・考える

深める歴史 テーマ・資料・問いで考える

① 社会の特質や構造を捉える44のテーマ学習

- ・各テーマは4ページまたは6ページで構成
- ・日本と世界が相互に関連していることを意識できる記述

② 深い学び、考える授業の実現

- ・写真、絵画、風刺画などバリエーション豊かな資料
- ・文字資料、グラフ、新聞記事など内容理解を促す資料

③ グループワークに最適！様々な問い設定

- ・大きな問いから各資料に付した小さな問いまで様々な問いを設定
- ・「問い」はグループワークなど生徒同士での意見交換を想定

内容解説資料
p.3参照

B.『現代の歴史総合』

みる・読みとく・考える

(第1部) 近代化と私たち

部のはじめ



I 近代化と私たち

近代化とは何だろうか。1～6の事例から選んで考えてみよう。



1 交通と貿易

19世紀に鉄道や蒸気船などの交通機関が急速に普及し、それともななって貿易も急速に拡大した。これによって世界の結びつきはどのように変化したのだろうか？



1 馬車と蒸気機関車の競争(アメリカ、1830年)

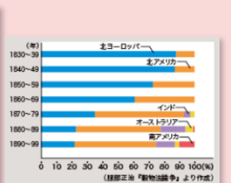
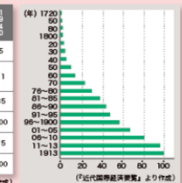


2 蒸気力のみではじめて大西洋を横断(1838年)したシリウス号

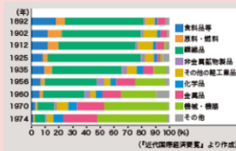


3 19世紀を通じて活躍した快速汽船

年	1800	1810	1820	1830	1840	1850	1860	1870	1880	1890
乗客(千人)	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
貨物(千トン)	5	6	8	10	10	11	11	11	11	11
乗客(千人)	10	15	20	25	30	30	30	30	35	35
貨物(千トン)	31	40	50	60	60	65	70	100		
乗客(千人)	-	-	-	30	45	55	60	75		
貨物(千トン)	-	-	-	50	110	185	300			



4 おもな交通手段とその速度(単位:マイル/時)
①①～⑤から何がわかるだろうか。
②②⑥から何がわかるだろうか。

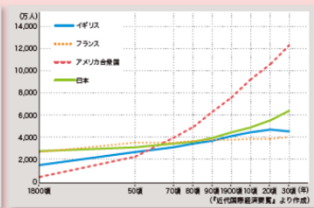
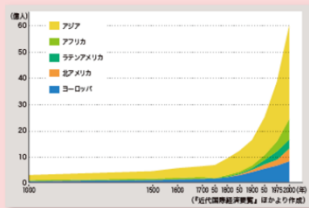


7 日本の貿易商品の種類(輸出)
③③⑦から、日本の輸出品について何がわかるだろうか。

12 ■1部 近代化と私たち

2 産業と人口

18世紀後半のヨーロッパで機械化が始まると、諸産業には大きな変化が生じ、その動きはアメリカ合衆国やアジアなどへも波及した。このことは、世界および各地の人口動態にどのような影響をおよぼしたのだろうか？



1 大衆別人口の推移
2 国別人口の推移
①①②について、それぞれ人口が多いのはどこだろうか。時期による違いにも注目してみよう。
②②から、江戸時代の日本の人口における特色として何があげられるだろうか。

年	農業	工業	サービス業	統計なし
1841	23	39	35	6
1901	9	54	37	0
1921	7	55	35	0
1951	5	57	35	0
1960	4	45	45	0
1977	2	43	55	0

年	農業	工業	サービス業	統計なし
1872	65	31	3	1
1925	52	24	24	0
1942	43	34	23	0
1950	45	27	25	0
1960	33	35	32	0
1977	14	37	49	0

年	農業	工業	サービス業	統計なし
1840	69	28	3	0
1870	51	39	10	0
1910	30	41	27	0
1950	12	45	43	0
1960	7	38	57	0
1977	3	33	64	0

3 イギリスの労働力の割合
4 日本の労働力の割合
5 アメリカの労働力の割合
②③～⑤の3つの産業間の労働力の割合において、3つの国に共通していることは何だろうか。

国	平均労働年齢(年平均)	商人、農夫、小売店	職工、労働者
オランダ(オランダ東インド会社)	52歳	41歳	35歳
マンチエスター(イングランド北部の工業地帯)	38	20	17
バスターム・グリーン(ロンドン東部の労働者階級)	45	26	16



7 ロンドンのスラム街(1872年)

6 イギリスの平均寿命(19世紀後半)
③⑥⑦から何が読みとれるだろうか。

「交通と貿易」に関するこれらの資料を読んで、気がついたこと、もっと知りたいと思ったこと、疑問に思ったことを書き出してみよう。



「産業と人口」に関するこれらの資料を読んで、気がついたこと、もっと知りたいと思ったこと、疑問に思ったことを書き出してみよう。



- ・交通と貿易
- ・産業と人口
- ・権利意識と政治参加、国民の義務
- ・学校教育
- ・労働と家族
- ・移民

について資料を掲載

資料を読みとく技術を培いながら、近代化について疑問や課題意識を持つ

キャラクターがナビゲート

内容解説資料 p.6～11参照

B. 『現代の歴史総合』

みる・読みとく・考える

章の概観

章のはじめ

2次元コードは動画やWebサイトへリンク

1 結びつく世界と日本の開国

この章では、18世紀の東アジアの社会と経済、アジアの地域間での貿易と欧米諸国との新しい貿易、産業革命、中国の開港と日本の開国などを扱います。日本を含めている国や地域の動向を比較したり相互に関連づけたりして、工業化や交通・通信手段がどのように進展し、世界市場が形成されていったのかを学びます。その結果、アジア諸国の社会と経済の仕組みや欧米諸国との関係が変容していくことについて理解を深めましょう。



詳しくみよう！

アジア歴史資料センター

トップページの「さまざまなコンテンツ」から「社会科学関連資料リスト」をみてください。日本前編条約の写真が閲覧できます。

動画にアクセスしよう！

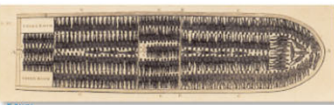
大阪の水運と商業の発達 (→p.23) | イギリスの産業革命 (→p.29) | ペリー来航 (→p.36) (BANK for Schoolより)

1600	イギリス船が下関に上陸	1602	オランダ船が下関に上陸	1603	オランダ船が下関に上陸	1604	オランダ船が下関に上陸	1605	オランダ船が下関に上陸	1606	オランダ船が下関に上陸	1607	オランダ船が下関に上陸	1608	オランダ船が下関に上陸	1609	オランダ船が下関に上陸	1610	オランダ船が下関に上陸	1611	オランダ船が下関に上陸	1612	オランダ船が下関に上陸	1613	オランダ船が下関に上陸	1614	オランダ船が下関に上陸	1615	オランダ船が下関に上陸	1616	オランダ船が下関に上陸	1617	オランダ船が下関に上陸	1618	オランダ船が下関に上陸	1619	オランダ船が下関に上陸	1620	オランダ船が下関に上陸	1621	オランダ船が下関に上陸	1622	オランダ船が下関に上陸	1623	オランダ船が下関に上陸	1624	オランダ船が下関に上陸	1625	オランダ船が下関に上陸	1626	オランダ船が下関に上陸	1627	オランダ船が下関に上陸	1628	オランダ船が下関に上陸	1629	オランダ船が下関に上陸	1630	オランダ船が下関に上陸	1631	オランダ船が下関に上陸	1632	オランダ船が下関に上陸	1633	オランダ船が下関に上陸	1634	オランダ船が下関に上陸	1635	オランダ船が下関に上陸	1636	オランダ船が下関に上陸	1637	オランダ船が下関に上陸	1638	オランダ船が下関に上陸	1639	オランダ船が下関に上陸	1640	オランダ船が下関に上陸	1641	オランダ船が下関に上陸	1642	オランダ船が下関に上陸	1643	オランダ船が下関に上陸	1644	オランダ船が下関に上陸	1645	オランダ船が下関に上陸	1646	オランダ船が下関に上陸	1647	オランダ船が下関に上陸	1648	オランダ船が下関に上陸	1649	オランダ船が下関に上陸	1650	オランダ船が下関に上陸	1651	オランダ船が下関に上陸	1652	オランダ船が下関に上陸	1653	オランダ船が下関に上陸	1654	オランダ船が下関に上陸	1655	オランダ船が下関に上陸	1656	オランダ船が下関に上陸	1657	オランダ船が下関に上陸	1658	オランダ船が下関に上陸	1659	オランダ船が下関に上陸	1660	オランダ船が下関に上陸	1661	オランダ船が下関に上陸	1662	オランダ船が下関に上陸	1663	オランダ船が下関に上陸	1664	オランダ船が下関に上陸	1665	オランダ船が下関に上陸	1666	オランダ船が下関に上陸	1667	オランダ船が下関に上陸	1668	オランダ船が下関に上陸	1669	オランダ船が下関に上陸	1670	オランダ船が下関に上陸	1671	オランダ船が下関に上陸	1672	オランダ船が下関に上陸	1673	オランダ船が下関に上陸	1674	オランダ船が下関に上陸	1675	オランダ船が下関に上陸	1676	オランダ船が下関に上陸	1677	オランダ船が下関に上陸	1678	オランダ船が下関に上陸	1679	オランダ船が下関に上陸	1680	オランダ船が下関に上陸	1681	オランダ船が下関に上陸	1682	オランダ船が下関に上陸	1683	オランダ船が下関に上陸	1684	オランダ船が下関に上陸	1685	オランダ船が下関に上陸	1686	オランダ船が下関に上陸	1687	オランダ船が下関に上陸	1688	オランダ船が下関に上陸	1689	オランダ船が下関に上陸	1690	オランダ船が下関に上陸	1691	オランダ船が下関に上陸	1692	オランダ船が下関に上陸	1693	オランダ船が下関に上陸	1694	オランダ船が下関に上陸	1695	オランダ船が下関に上陸	1696	オランダ船が下関に上陸	1697	オランダ船が下関に上陸	1698	オランダ船が下関に上陸	1699	オランダ船が下関に上陸	1700	オランダ船が下関に上陸
------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------	------	-------------

※→日本と関わりの深いできごと ※←世界



大坂の賑わい
手前に荷船の置、向こう岸に豪商船の置が建ち並び、奥に見える大型船が豪商船である。(大坂町史編集)



汽船を構った船(1790年代)
労働力として売られた奴隷は、劣悪な環境のなかで運ばれた。



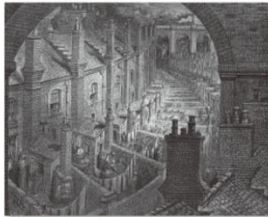
清とイギリスの貿易交渉を描いた風刺画(1793年)
清の乾隆帝に拜する、イギリス使節が描かれている。



黒船の図
ペリーの来航を描いた日本の挿絵。(神保町立歴史博物館)



大陸横断鉄道の完成(1869年)
アメリカ合衆国の東西を結ぶ鉄道が開通したことで、西部の市場と東部の工業地帯が結びつけられた。



都市環境の悪化(1872年)
ロンドンのスラム街の様子が描かれている。



岩倉使節団
特命全權大使の岩倉具視は冠をとりまげをまだ残しているが、まわりの使節は全装まげを切っている。(山口県立歴史博物館)



年表や図版で、
章の概観をつかむ

内容解説資料
p.6～11参照

B. 『現代の歴史総合』

みる・読みとく・考える

本文

44のテーマ学習

1テーマは4～6ページで構成 社会の特質や構造を捉え、 理解を深める



18世紀の東アジアにおける社会と経済

18世紀の中国と日本では、商品生産と流通網はどのように発達したのだろうか？



18世紀の中国と日本では、商品生産と流通網はどのように発達したのだろうか？

- 1 18世紀の中国経済の発展に、どのような商品やモノが影響を与えたのだろうか。
- 2 繁栄する18世紀の東アジアのなかで、中国と日本の共通点と相違点はどこにあったのだろうか。
- 3 徳川幕府の仕組みは、どのようなかたちで経済の発展に影響を与えたのだろうか。

年	中国(清)	日本
1719	乾隆帝即位(41)	徳川幕府(41)
1721	乾隆帝即位(41)	徳川幕府(41)
1722	乾隆帝即位(41)	徳川幕府(41)
1724	乾隆帝即位(41)	徳川幕府(41)
1732	乾隆帝即位(41)	徳川幕府(41)
1767	乾隆帝即位(41)	徳川幕府(41)
1782	乾隆帝即位(41)	徳川幕府(41)
1783	乾隆帝即位(41)	徳川幕府(41)
1787	乾隆帝即位(41)	徳川幕府(41)
1788	乾隆帝即位(41)	徳川幕府(41)
1793	乾隆帝即位(41)	徳川幕府(41)
1796	乾隆帝即位(41)	徳川幕府(41)

① 手工業の発達

時代の発展による職人の産業技術書『天工開物』(一)一編、(徳川幕府)

Q どのような製品が売れていたのだろうか。

Q 『天工開物』は日本に輸入された多くの商品に引用されたり、和紙本というたてで発行された。江戸時代の日本経済の特徴→から、その理由をあげてみよう。

② 商業ルートの発達

Q ③ 遠東各地の交通ルートを示している。ルートが通っているのはどの地域だろうか。

Q ④ ⑤ 『天工開物』の『天工開物』が『天工開物』を著した理由をあげてみよう。

④ 18世紀の中国経済

中国では、長江下流域から古蹟した漢人の王朝である明が、皇帝の専制支配のもとで全国を統治した。その後、17世紀に清の関門が開かれ、明の統治が崩壊し、清が中国を統一した。清は、明の統治を継承し、広大で多様な中国全土を統治した。清の統治は、明の統治を継承し、広大で多様な中国全土を統治した。清の統治は、明の統治を継承し、広大で多様な中国全土を統治した。

⑤ 18世紀の東アジアにおける社会と経済

⑥ 江戸時代の日本の国制

Q ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

⑬ 全国市場の確立

Q ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

バリエーション豊かな資料

内容解説資料 p.6~11参照

B. 『現代の歴史総合』

みる・読みとく・考える

様々な「問い」

本文

グループワークを想定し、
主体的・対話的な学びを実現



テーマの目標となる
大きな「問い」

1 18世紀の東アジアにおける社会と経済

18世紀の中国と日本では、
商品生産と流通網はどのように発達したのだろうか？

この絵は18世紀の清代の江南地方にある蘇州(姑蘇)の様子を描いたものである。大運河が通り、水上交通の要であった蘇州には無数の船が往来し、経済や文化の中心として繁栄をまわめた。18世紀中国には人口は50万人に達した。

①大運河沿いに並ぶ商店の看板の文字を読んでみよう。どのような商品が取り引きされたのだろうか。

②看板に「行」という文字がみられるが、これは何を意味するのだろうか。

18世紀の中国と日本を比較する年表

年	中国(清)	日本
1716	専政の改革(〜45)	
1721	特種票の始成(年公配)	
1722	キリスト教全面禁止/この頃、地丁制開始	元寇防止の採用
1724	キリスト教全面禁止/この頃、地丁制実施	
1732		専政の軌跡
1757	欧米船との貿易を広州に限定	
1767		天明時代(〜96)
1782		天保の軌跡
1783		池田山大噴火
1787		寛政の改革(〜93)
1792		ロシア探検船航
1793	イギリス使節、乾嘉学に代表	
1796	白蓮教の乱(〜1804)	

2 18世紀の東アジアにおける社会と経済

① 手工業の発達

② 商業ルートの発達

金華は文獻の盛んな町というが、新築の地に位置し、土地はやせて人口は多く、遠隔地商業にたずさわる者は3分の1を占める。……蘇州にいる金華出身者は同郷人の来訪をよるこび、金華から到来した者も同郷人を頼りに集まってくる。……乾隆9年(1744年)金華の同郷者たちは、[蘇州に]会館を建てようと言議し、資金を出し合い……建材をそろえ、職人を集め、壬申の年(1752年)に完成した。

③ 州商人の交通ルート

④ 金華会館の調査(大塚、1752年)

⑤ シノワズリ

18〜19世紀のヨーロッパでは、建築・家具・食器などの分野でシノワズリと呼ばれる中国風の美術工芸品が流行した。中国へのあこがれと異國情味のあらわれであった。写真はドイツのポツダムにあるサンスーシ宮殿の中国風茶室。

18世紀の東アジアにおける社会と経済 21

各資料に付随した
小さな「問い」

日本と世界の動きを
比較する年表

内容解説資料
p.6〜11参照

B. 『現代の歴史総合』

みる・読みとく・考える

(第1部) 近代化と現代的な諸課題

部のまとめ

近代化と現代的な諸課題

第1部で学んだ内容は、現代の諸課題を考えるうえでヒントにもなる。①～⑥の観点から考えてみよう。



① 開発・保全

産業革命を経験した国やその植民地では、開発が急進におこなわれたが、それともなって環境が変化すると、保全も必要なが後々に認識されていった。このような環境の変化に、人々はどのように対応したのだろうか。

環境汚染



① テムズ川の汚染(PLUNGING INTO THE RIVER, 1859年)

イギリスでは、生活排水や工場排水でテムズ川の汚染が深刻になった。汚れた川の水は井戸水にも流入し、それまでなかったロンドンでのコレラの大流行が、19世紀初頭から中頃だけで3回も生じた。その後、病理学や医学の発達とともに公衆衛生に対する考えが変わり、19世紀後半に上下水道が整備されると、コレラの大流行はみられなくなった。



② 遠尾山と周辺のほけ山(1901年)

日本では、1880年代から絹の需要が高まり、産出量が激増した。栃木県の遠尾川流域では、絹繭によって耕地が荒廃した。田中正造らが鉱山操業停止を求めたが、近隣住民のあいだでは雇用喪失を心配した農業者と反対運動もおこった。生活と並ぶ利益確保手段であった絹の一大産出地というところもあり、政府は操業を停止させず、絹繭問題を法廷問題に持ち替え、1907年に谷中村を農村として遊水池にして閉鎖の処置をはかった。(資料は国史館蔵)

- ①②の問題について、なぜ対策が遅れたり、徹底した対策がとれなかったりしたのだろうか。現代の私たちとは異なる、当時の人々の状況や考え方に注目して考えてみよう。
- ②その後、これらと似た構造の問題は発生していないだろうか。

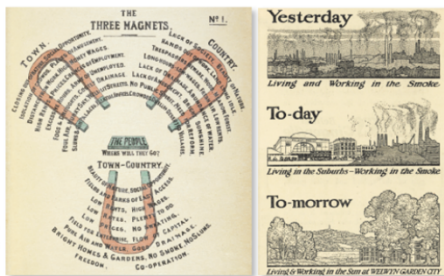
環境保全への試み

環境の悪化に際し、新しい社会のあり方を模索する試みも生まれた。



③ エベネザー・ハウード

ロンドンの環境悪化を受けて、19世紀末にGarden City構想を発表し、20世紀初頭にロンドン郊外のレッチワースでその構想を実現した。



④ ハワードの著作中の概念図

⑤ Garden Cityのポスター

- ④⑤について、「TOWN」「COUNTRY」「TOWN-COUNTRY」の3つは、それぞれどのような特徴をもつ居住空間だとされているだろうか。

- ⑤ あなたなら3つのうち、住むのにどこを選ぶだろうか。それを選んだ理由もきめて、まわりの人と意見交換をしてみよう。

Garden City構想の影響を受け、日本では20世紀初頭より田園都市の建設が首都圏や関西圏の郊外で試みられた。



⑥ 田園都市案内(東京府江東区江東区役所蔵)

- ⑥ 現在に至るまで、大都市に住む人々の割合は圧倒的に多い。なぜGarden Cityや田園都市は、居住空間として一般的にならなかったのだろうか。



現代社会にも、「開発・保全」に関係した問題は数多く存在している。その具体的な事例をあげて、開発と保全のバランスに着目して考えてみよう。

「開発・保全」
「対立・協調」
「自由・制限」
について取り上げる

過去の課題に対する取り組みを資料を見ながら読みとき、

現代の諸課題について自ら課題を設定して考える

キャラクターがナビゲート



C.『わたしたちの歴史』

日本から世界へ

歴総709



- ◆AB判 182頁 ●写真301点
- 地図87点 ●グラフ・図表100点
- 文字資料54点 ●2次元コード10点

『わたしたちの歴史』日本から世界へ

見開き47テーマ ビジュアルで楽しく学ぶ

①厳選された見開き2ページ完結の47テーマ

- ・**これだけは！**という47テーマを厳選。(1テーマ見開き2頁完結)
- ・2単位で余裕をもった授業展開

②現場目線の楽しい工夫

- ・高校の先生が執筆。授業で活用しやすい要素が多数
- ・巻末の用語解説には、生徒になじみの薄いと思われる用語を収録

③身近な歴史から世界をみる

- ・学校、給食、映画、野球、SDGsなど**身近なものが随所に**
- ・平易でわかりやすい記述

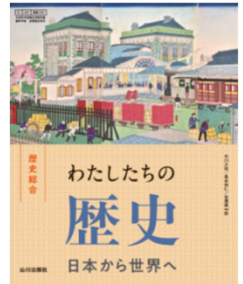
内容解説資料
p.3参照

C. 『わたしたちの歴史』

日本から世界へ

(第1部)
近代化への問い

部のはじめ

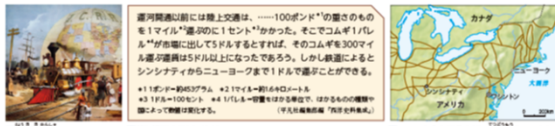


近代化への問い①

交通と貿易

18世紀のイギリスで始まった産業革命は、交通機関の発達もうながした。交通機関が発達していった理由や、その影響について、みていこう。

新しい交通機関の発明



蒸気機関車は、蒸気機関を利用した新しい交通機関です。

蒸気機関車によって、鉄道の敷設が（A）高くなった/安くなったことがわかります。

このことは、鉄道は（B）にも活用されたと考えられます。

（A）や（B）に当てはまる選択肢や言葉は何でしょうか？

日本における新しい交通機関の発達

1872	新橋と横浜のあいだに最初の鉄道が開通する
1881	日本郵船会社が設立される
1885	日本郵船会社が設立される
1889	東海線（東京～神戸）が開通する
1891	日本郵船会社が上野～青森に鉄道を全通させる
1893	日本郵船会社がサンペイ（インパ）への船路を開く
1895	日本郵船会社がサンペイ（インパ）～ロイヤル・シヤトル（北アメリカ）、メルボルン（オーストラリア）への船路を開く
1905	航空郵便が開始される

日本郵船会社のおもな定期航路(1896年)

日本における交通機関の発達

（A）をみると、日本でも（C）：明治維新/第一次世界大戦/第二次世界大戦 以降、新しい交通機関が発達しています。

最初の国際航路がインドへの航路となったのは、なぜでしょうか？

この頃のインドは、（D）：綿花/生糸/アヘン/茶の生産地として知られていました。

欧米への航路は、日本で生産された（E）：綿花/生糸/アヘン/茶の輸出のために関わったのでしょうか？

（C）から（E）に当てはまる選択肢は何でしょうか？

このページで気づいたこと、もっと知りたいと思ったことを疑問のかたちでまとめてみよう。

近代化への問い②

産業と人口

産業革命は、紡績業の分野から始まった。産業の発達やその影響について、みていこう。

紡績業の発展



中学校で産業革命を習いました。そのときに、（A）のような写真を見たことがあります。

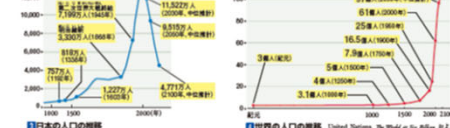
ヨーロッパの（A）：イギリス/フランス/ドイツ/インド から始まった産業革命は、紡績業などの軽工業から始まりました。

（A）の前は、（B）のように手で紡いでいました。

つまり、産業革命とは（B）を使って、製品を大量生産することですね。

（A）や（B）に当てはまる選択肢や言葉は何でしょうか？

人口の変化



産業が発達すると、社会も変化します。（A）のグラフから、どのようなことが読み取れるでしょうか？

日本では明治維新のあと、（C）が大きく増加しています。

そうですね。（A）のグラフを参考にして、（C）が増加した原因は何を考えてみましょう。

このページで気づいたこと、もっと知りたいと思ったことを疑問のかたちでまとめてみよう。

- ・交通と貿易
- ・農業と人口
- ・権利意識と政治参加や国民の義務
- ・学校教育
- ・労働と家族
- ・移民

資料を読みとく技術を培いながら、
疑問や課題意識を持つ

ヒントになるような
キャラクターの会話文

内容解説資料
p.6～7参照

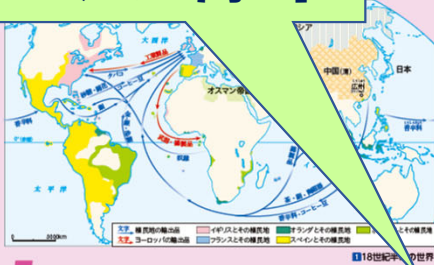
C. 『わたしたちの歴史』

日本から世界へ

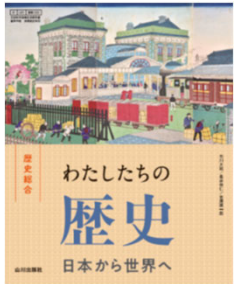
1テーマ1見開きの本文

本文

テーマの「問い」



図版は大きく！



2ページ完結の47テーマ！

2単位で余裕をもった授業展開ができるので、アクティブラーニングなども取り入れやすいです。

本文の分量は各テーマ統一！

資料へアプローチするための「問い」

18世紀の世界とアジア



18世紀のアジアは、経済や文化が発達していた。こうした状況は、ヨーロッパにどのような影響を与えたのだろうか？

【日本・琉球・蝦夷地】 1603(慶長8)年に成立した江戸幕府は、17世紀半ばまでにキリスト教を禁じ、日本人の海外渡航や海外に居住する日本人の帰国も禁じた。さらに、オランダを除くヨーロッパ船の来航を禁止して貿易を統制した。こうした状態は、のちに「鎖国」と呼ばれた。しかし、幕府はいわゆる「四つの窓口」を通じて海外との交流を続けており、その情報をもとに同時代の国際情勢を把握した。幕府が貿易を統制すると、それまで輸入品であった絹織物・茶・陶磁器・砂糖などは日本国内で生産されるようになった。また、新田開発などによって農業生産も伸びた。これらを背景に、日本では江戸・大阪・京都の三都が生まれ、三都を中心に全国市場も形成された。

15世紀に成立した琉球王国は、明・清の冊封国としての立場をとり、中継貿易で栄えていた。しかし、17世紀に薩摩藩の侵襲を受けてからは、中国に形式的に服属しながらも、日本の支配を実質的に受けるようになった。

【ヨーロッパ諸国の海外進出】 ヨーロッパ諸国は、16世紀頃から商品を取引するため、海外へ進出をはじめ、たがいに植民地獲得競争を繰り広げた。その結果、18世紀に入る頃までは南北アメリカ大陸が植民地化された。また、アフリカ西海岸に拠点を設けた奴隷貿易もおこなわれ、大西洋三角貿易と呼ばれる体制が成立した。ヨーロッパ諸国の競争は、18世紀後半にイギリスの勝利で終わった。しかし、1783年にアメリカ合衆国がイギリスから独立し、その影響を受けて、19世紀前半にはラテンアメリカ諸地域も独立を達成した。そのため、ヨーロッパ諸国は、新たな進出先を求める必要にせまられていた。

【中国の都市のにぎわい】 中国では、河川や運河を利用した輸送網が発達し、都市では活発な商品取引がおこなわれていた。



江戸時代の対外貿易 江戸時代の日本は、鎖国政策のもとで、オランダ・琉球・朝鮮を通じて交易をおこなった。また日本は、東亞正統派外交をもとに、長崎で中国の商人との取引を許したほか、オランダ・琉球・朝鮮を通じて交易をおこなった。

【18世紀のヨーロッパ人の中国観】 中国の政治に対して批判的な意見がヨーロッパではかなり広く存在するのだが、私は逆に、中国旅行記などによって、その政体が異常で野蛮な法律にもとづいていて、その法を皇帝が遵守させるとともに、皇帝自身も遵守していると理解するようになった。(ケネー「中国の事情」) / 大野武二「開港の物語」

【ケネーは、当時の中国(清)を、どのようにみていたのだろうか？】

18世紀の対外貿易 上から、中国の貿易品でつくられた陶磁器、西洋風の船付けがはこびれた中国の陶磁器、ドイツのマイセン磁器。上：大野武二「開港の物語」

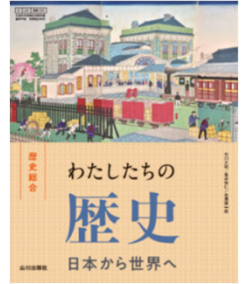
内容解説資料 p.8~9参照

C. 『わたしたちの歴史』

日本から世界へ

(第1部) いまの私たちにつながる課題

部のまとめ



いまの私たちにつながる課題 自由・制限

どっちがお得？ 自由貿易と保護貿易

人類の歴史をみると、国や人々がいるいろいろな制約から自由になろうとする動きがある一方で、行き過ぎた自由を制限しようとする動きがあることも気がつく。このことについて、「貿易」を例として考えてみよう。

●自由貿易と保護貿易

貿易には、大きく分けて自由貿易と保護(制限)貿易という2つの形態がある。これらの形態は、歴史上、どのような国で、どのようなときに、選択されたのだろうか。まずは、自由貿易と保護貿易の特徴を整理してみよう。

1 自由貿易と保護貿易の違い

自由貿易＝国家が貿易に介入しない
→市場の働きに任せた自由な取引がおこなわれる
保護貿易＝国家が貿易に介入して自国の産業を保護・支援する
例：関税や輸入数量制限などにより輸入を制限する
輸出補助金などにより自国産品の輸出をあと押しする

Q1 1から、自由貿易を選ぶ国と保護貿易を選ぶ国には、どのような違いがあるといえるだろうか？

Q2 ①1円でも安い商品を買いたい人にとって、自由貿易はどのような意味をもつだろうか？
②他国より優れた製品の開発を進めている人や国にとって、保護貿易はどのような意味をもつだろうか？

●中国(清)とイギリス



19世紀の貿易に活躍するマカオ

2の絵は、1793年にイギリスから派遣されたマカオ(マカオ)が清の皇帝に謁見して、貿易の改善を求めている様子を描いたものである。

Q3 ①イギリスは、清からおもに何を輸入していたのだろうか？
②イギリスは、清へ何を輸出したかったのだろうか？
③イギリスは、清に対してどのようなことを求めたのだろうか？
④清は、なぜイギリスの要求を受け入れなかったのだろうか？
⑤交渉に失敗したあと、イギリスはどのような手段で貿易の増進をおぼせようとしたのだろうか？

32～33ページに書かれていることも参照しよう！

●19世紀後半のアメリカ合衆国

自由貿易か保護貿易かの選択をめぐることは、国内でも意見が異なることがある。このことを、南北戦争にいたるまでのアメリカ合衆国の状況をまとめた3から5のグラフと絵から考えてみよう。



1 南部の風景

3と5の絵は、それぞれどのような様子を描いたものであるかに注目しよう！

Q4 つぎにあけた南部・北部それぞれの主張にある(A)から(D)に当てはまる言葉を、3から5を参照して考えてみよう！

南部の主張

保護貿易で(A)からの輸入を制限すると、彼らは、報復として、私たちのつくった(B)を輸入しなくなるかもしれない。それに、人口の少ない南部では、(C)は貴重な労働力でもあるんだ。

北部の主張

自由貿易で(A)からの安い(D)の輸入を野放しにすると、私たちの工場が危なくなる。それに、(C)を解放すれば、私たちは安価な労働力を獲得できるんだ。

貿易以外の点では、南部と北部の考え方には共通点もみられるようだ。それは、どのようなことだろうか？

Q5 「自由貿易を選択するが、保護貿易を選ぶ」のふたつとついでに、家内や国内の地方間で意見が異なるという問題は、現代の社会でもみられるだろうか？ あるとしたら、どのような点が問題となっているのだろうか？

本文での学習を通して、身近な現代の諸課題について自ら課題を設定して考えます。



トキ先生からヒントも！

内容解説資料 p.10～11参照

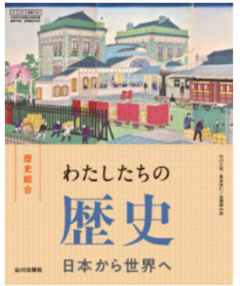
C. 『わたしたちの歴史』

日本から世界へ

特集ページ

考えてみよう！

本文の内容をより深く考察できるよう
特集ページを7つ設けています。



考えてみよう！

大衆文化としての映画

1903年のエジソンが考案した活動写真機は、多くの映画の発祥とされている。1909年には、アメリカで最初の映画館「ニコラス・オースティン・シアター」が開業した。

1915年には、フランスのリュミエール兄弟やアメリカ合衆国のエジソンらによって開発された。当時の映画は、音声がなく、言語の壁がなくなり、国境を越えた文化の交流が盛んにおこなわれた。第二次世界大戦が始まるまでは、世界各国で映画がつくられるようになった。

アメリカにも多くの映画が輸入され、移民や労働者などの娯楽となった。1910年代には、アメリカ西海岸に映画の聖地ハリウッドが建設された。徐々に映画産業の中心地的役割を担うようになっていった。

日本でも映画は人気を得て、1903(明治36)年には日本初の映画館が開設された。

アメリカ合衆国と映画

第一次世界大戦が始まると、アメリカはヨーロッパなどに資金の貸出などをおこなって利益をあげ、経済的に急成長した。アメリカ映画の製作数は大幅に増加し、世界中にアメリカ映画が輸出されるようになった。

第一次世界大戦後は、ヨーロッパの監督や俳優がハリウッドにまねかれた。アメリカの映画産業は大きく成長した。映画は多くの人々に愛され、チャップリンなどのスターと呼ばれる俳優たちが注目を集めた。映画が人々の娯楽として定着していった。映画の社会への影響も大きくなった。たとえば、1915年に公開された『国民の誕生』では、南北戦争の描かれるなかで、黒人は悪役として登場した。映画では白人優位主義の秘密結社クークラックス・クラン(KKK)が英雄として描かれ、このことが実際のクークラックス・クランの活動を活性化させたという説もある。

1927年から映画は音声を取り入れられるようになり、映画の表現は大きく前進した。『シンフォニー』がこれである。映画産業は大きく成長した。1930年代になると、再び映画の中心地ハリウッドが築かれた。『オズの魔法使』などアニメーションやミュージカルを取り入れた映画や、『フランジッシュ・タイン』などの歴史映画、『風と共に去りぬ』や『西線無戦場』といったアメリカの歴史を描く映画など、様々な種類の映画が作られた。

映画は、各国政府によってプロパガンダとして利用されることもあった。

ソ連では、1920年代にロシア革命を正当化する映画が作られた。ドイツでは、ナチスが法律で映画への検閲を強いるとともに、多くの宣伝映画をつくった。

日本でも、政府は映画を統制下ににおこうとして、法律を定めた。戦時中には、多くの戦争映画が作られ、観客は映画を通じて兵士の活躍や、戦争への協力などがされた。アメリカやイギリスなどでも戦時中には戦意高揚のための映画が作られた。現代の映画にも登場するヒーローが、日本やドイツや戦争映画も作られた。

映画と政治

映画は、各国政府によってプロパガンダとして利用されることもあった。

ソ連では、1920年代にロシア革命を正当化する映画が作られた。ドイツでは、ナチスが法律で映画への検閲を強いるとともに、多くの宣伝映画をつくった。

日本でも、政府は映画を統制下ににおこうとして、法律を定めた。戦時中には、多くの戦争映画が作られ、観客は映画を通じて兵士の活躍や、戦争への協力などがされた。アメリカやイギリスなどでも戦時中には戦意高揚のための映画が作られた。現代の映画にも登場するヒーローが、日本やドイツや戦争映画も作られた。

「映画」や「スポーツ」など身近な話題が！

巻末

用語解説

用語解説

あ

- ★ **一揆** (p.4152) 農民らが特定の目的を達成するための抵抗運動。江戸時代中期以降は、年貢の負担を軽くするよう求める大規模な一揆があり、後期には世直しを求める一揆が頻発した。
- ★ **委任統治** (p.82,84,126) 国際連盟が採用した制度。本来、独立国になるべきであるが準備が整っていない地域を、強国が国連から一時的にゆだねられおさめる。実際は、第一次世界大戦の戦勝国が敗戦国の植民地を分割する口実を使用したという見方もある。
- ★ **インフラ** ⇒ **社会資本**・インフラ
- ★ **インフレーション・デフレーション** (p.83, 110) ある経済の状態を指す。インフレーションは、お金(不換紙幣)の発行が本来の妥当な量をこえて過剰になっている状態。この状態では通貨の価値は下がり、物価は上がる。デフレーションは、お金
- ★ **旧暦** (p.49) 使用されている暦より以前の暦のこと。現在、太陽暦を採用している日本の旧暦は太陰暦である。
- ★ **協商・同盟** (p.56) 同盟は国家・組織・個人が共通の目標を達成するために取決めで約束すること。協商は複数の国家が特定のことがらについて取決めをおこない、協力しあうことで、同盟に比べてゆるやかな結びつきとなる。
- ★ **共和政** (p.43) 国家に君主がいない政治形態。
- ★ **極東** (p.39) ヨーロッパからみて、中国・朝鮮・日本・東シベリアなど、もともと東に離れた地域を指す言葉。
- ★ **居留地** (p.36) 外国人に居住を許可した地域。ここでおこなわれた貿易を居留地貿易という。日米修好通商条約(1858年)では、外国人の行動範囲は居留地周辺に限られ、日本国内を自由に旅行することはできなかった。
- ★ **金融緩和** (p.141) 景気対策の1つとしておこなわれる。
- ★ **経済制裁** ⇒ **制裁**
- ★ **警備思想** (p.49) 人間が意識して思考する能力のことを理性というが、その理性を個人で確立していこうとする思想。
- ★ **毛織物** (p.30,40) ヒツジ・ヤギ・ラクダなどの毛でつくった糸から織られる織物で、保温性と耐久力にすぐれている。気候の冷涼な地域では必需品で、衣料品のほかにも遊牧民のテントや敷物をつくる際の素材となる。
- ★ **ゲリラ** (p.136) 大軍団士の決戦を避けて小規模な部隊で行動し、奇襲や破壊工作などをおこなう軍隊、またその戦法をいう。
- ★ **権益** (p.76,83,85,96) 権利と利益のこと。国際政治では、ある国が他の国から獲得した特権や租借地などを指して用いられることが多い。

本文中の★マークの用語は巻末で解説しています。

内容解説資料 p.12~13参照

歴史総合

- ④ 指導書のご案内
- ⑤ 教材のご案内

④指導書

・教師用指導書 授業実践編

『歴史総合』 B5判 290頁(予定)

『現代の歴史総合』 B5判 256頁(予定)

『わたしたちの歴史』 B5判 390頁(予定)

・教師用指導書 研究編

B5判 400頁(予定)



教師用指導書 付属データ集

- ①教科書紙面データ
- ②教師用指導書紙面データ
- ③授業用スライド
- ④準拠テスト例



※『現代の歴史総合』『わたしたちの歴史』には
⑤授業用スライドに対応したワークシートも付きます。

詳しくは「**内容解説資料**」をご参照ください

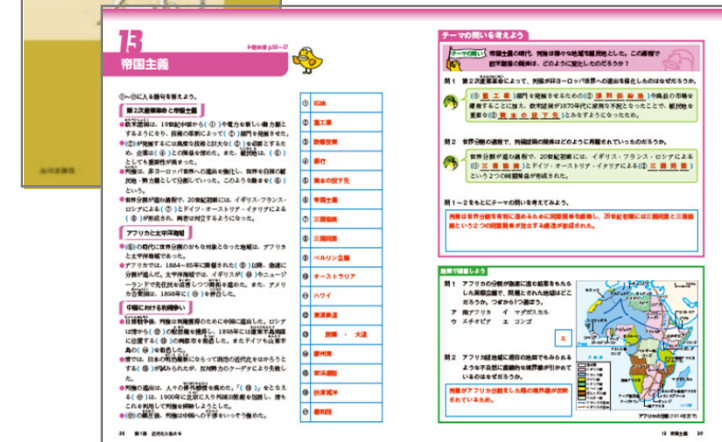
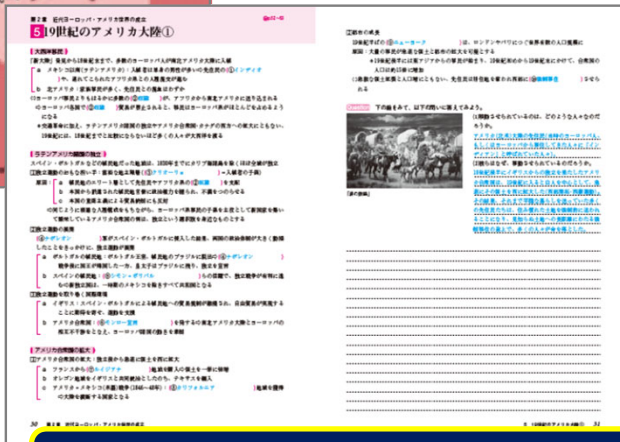
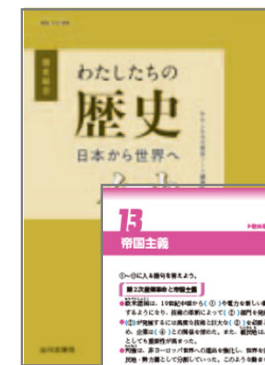
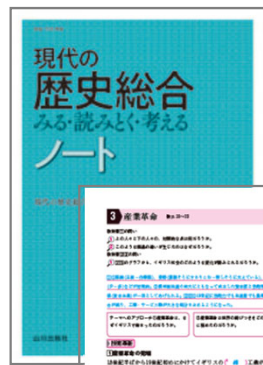
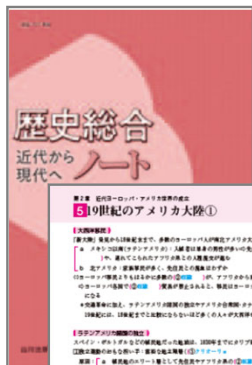
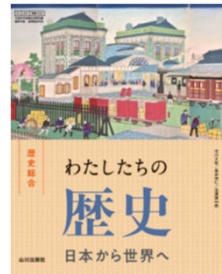
⑤ 準拠ノート

各880円(税込)※予価

『歴史総合』 B5判 176頁(予定)

『現代の歴史総合』 B5判 256頁(予定)

『わたしたちの歴史』 B5判 144頁(予定)



詳しくは「内容解説資料」をご参照ください

⑤一般販売品

※書店でも販売いたします。

『歴史総合 用語と解説集』

四六判 260頁(予定)

予価990円(税込)

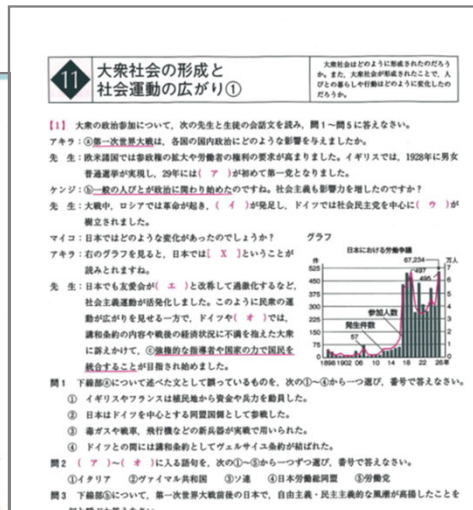
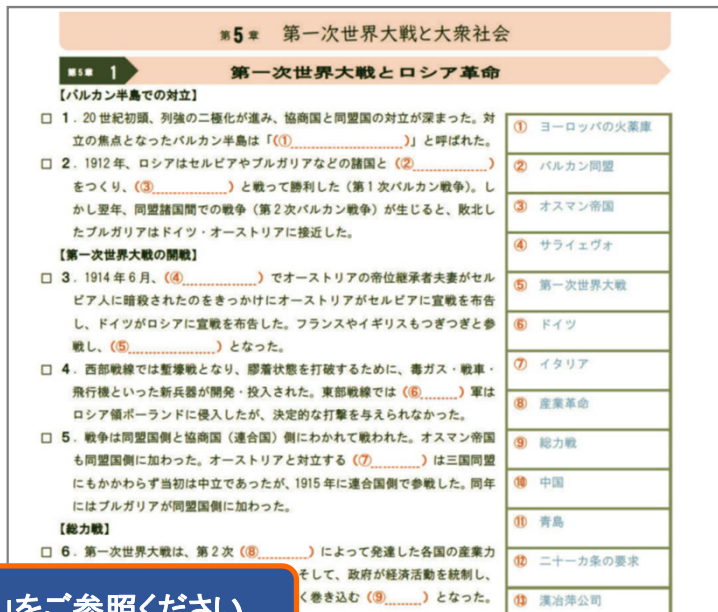
『歴史総合 要点チェック』

B5判 72頁(予定)



『歴史総合問題集』

B5判 128頁+解答16頁



詳しくは「歴史総合補助教材目録」をご参照ください

⑤ 採用品

※書店店頭での販売はいたしません。

『歴史総合 資料集』

AB判 56頁(予定)



『地図&年表で整理 歴史総合』 AB判 40頁(予定)

社会・労働運動の進展と大衆の政治参加 27

第一次世界大戦と社会運動の進展

労働組合の増加

労働争議の増加

大衆の政治参加

9 第二次世界大戦 (1935 ~ 45)

ドイツ	ヨーロッパ戦線	中国・東南アジア	太平洋戦線	日本	内戦
1939 9月 ポーランド侵攻	1939 8月 独ソ不可侵条約	1937 抗日民族統一戦線樹立	1937 日中戦争	1937 ● 盧溝橋事件	1937 日独伊時局協定
1940 4月 フランス降伏	1940 12月 太平洋戦争勃発	1940 汪兆銘の国民党政府樹立	1940 9月 日米通商航海条約	1938 ● 支那五ヶ年計画	1938 日独伊時局協定
1941 6月 独ソ戦争開始	1941 3月 米、武器貸与法成立	1940 汪兆銘の国民党政府樹立	1940 9月 日米通商航海条約	1939 ● 反共国際法	1939 独ソ不可侵条約締結
1943 2月 スターリングラード戦敗退	1942 9月 イタリア降参	1941 11月 カイロ宣言 (米・英・中)	1941 12月 真珠湾攻撃	1941 ● 大日本帝国憲法改正	1941 第二次世界大戦勃発 (ヨーロッパ)
1944 6月 ノルマンディー上陸作戦	1944 8月 ドイツ無条件降参	1945 3月 東京大空襲	1945 8月 広島・長崎に原子爆弾投下	1945 ● 天皇制の継承問題	1945 日本降参 (中国)
1945 5月 ドイツ無条件降参	1945 9月 日本降参	1945 8月 広島・長崎に原子爆弾投下	1945 8月 日本降参	1945 ● 新憲法制定	1945 日本降参 (太平洋)

詳しくは「歴史総合補助教材目録」をご参照ください

⑤ デジタル教科書

『歴史総合』（指導者用／学習者用）

『現代の歴史総合』（指導者用／学習者用）

『わたしたちの歴史』（指導者用／学習者用）



〈指導者用〉主な機能

- ①ズーム表示 ②Q&A ③図版の拡大表示 ④道具
- ⑤動画再生 ⑥地図アプリ ⑦グラフアプリ

〈学習者用〉主な機能

- ①ペン＆マーカー／消しゴム ②ページ遷移／用語検索
- ③ふせん

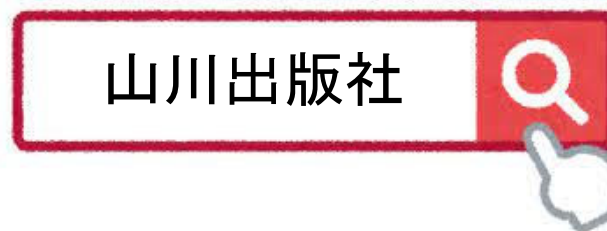
詳しくは「**内容解説資料**」をご参照ください

◀※画像は『歴史総合』の一例です。

HPのご紹介

新しい**歴史教育**のスタートとともに

山川出版社HPに「歴史総合特設サイト」がございます。
教科書の紹介動画もありますので、ぜひご覧ください。



山川出版社

こちらからも
特設サイトへ！